

釧路公立大の強み

余塵

北海道中小企業家同友会くしろ支部幹部大学同窓会の定時総会が18日に開かれ、記念講演も聴講した。講師は釧路公立大学の白川欽哉学長が務め、入学者のエリア別構成や就職動向、アバター就活相談室の設置など、同大の現状と展望を語った▼興味深い報告として、釧路管内の入学者が近年、15%前後で増加傾向にあり、7割が地元で就職しているという。卒業後、まずは札幌や東京など、都会で働くのが「定番」だった時代は今とは昔のようだ。むしろ、道外からの入学者、特に、九州・沖縄出身者は地元に戻らない流れも見られるとのこと。釧路が離れ難いまちとなるのはうれしい▼釧路で学んだ4年間を経て、次の道を選ぶ。出世ばかりが仕事の価値ではない。いかにどこで働くかを大事にしている現れのようにも感じる▼せっかくの機会。この頃、話題の中央大学との包括連携に向けた動きについて質問。「釧路公立大は何を得られるのか」と。白川学長は「釧路公立大にないものを得る」と言い切った。具体例として、大学院への進学などを挙げた▼釧路公立大に農学部はないが、1次産業とのつながりは太く、中央大の学びでも生きる。アカデミックな交流が活発に行われる予感がしてきた。(山本 雅之)

釧公大生と連携企画決まる

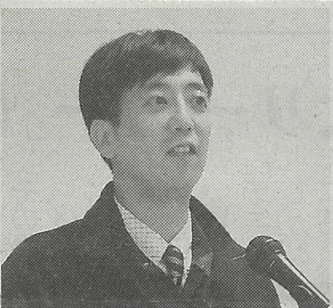
同友会くしろ幹部大同窓会総会

北海道中小企業家同友会くしろ支部同友会くしろ幹部大学同窓会の第29回定時総会（鎌田大学会長）が18日、釧路市栄町8のアクアボール・くしろで開かれ、2024年度活動報告、25年度活動方針案など5議案を承認した。

同窓会は、地元企業に勤務しながら、社会人としての学びを実践する同幹部大学の修了生で構成。例会や研修会を自分たちで企画し研さんを積む一方で、同

幹部大学の運営にも参画している。24年度は、道東地域を中心とした鉄道の歴史について理解を深めたほか、釧路公立大の学生との交流会にも臨んだ。

25年度は、新たな試みとして、同くしろ支部共育委員会と社員共育プログラムを合同開催し、幹部大学同窓生については無料で参加できるようにする。さらに、釧路公立大学の学生との連携企画を行い、一層の交流を図る。鎌田会長は「幹部大学同窓会の活動の周知に努めながら、多くの幹部大学同窓生の参加を促していきたい」と語った。



釧路公立大学の学生との交流促進などについて意欲を示す鎌田会長

この日は、釧路公立大学長の白川欽哉氏が講演。「若者、地域、未来について」という演題で、国内の大学や短大の推移、釧路公立大の現状と展望などについて語った。

(山本雅之)